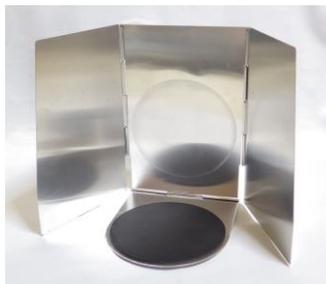




風防



使用例



使用時



収納時

-DATA-

アルミ製 カラー:シルバー

展開寸法:幅422mm×高さ220mm×直径130mmのゴムを張ったバーナー台付。

コンロの熱効率と安定性がアップします。

収納寸法:厚さ4mm×150mm×220mm 重量:195g

価格:3,888円(税込)

当社の商品はすべて **Made in japan** 表示をしています。

〒334-0062 埼玉県川口市榛松 699

TEL 048(281)1322 FAX 048(286)0866

<http://www.exp-japan.jp> e-mail: exp.offjapan@gmail.com



他業種であれば、このような白書は数多く目にしていました。むしろ今まで存在しなかった事が不思議なくらいです。登山用品メーカーとして登山者数の推移やエリア別の違いなど業界の動向を知る上でも今回の白書の発売は大変喜ばしいことです。

主な内容は下記の通りです。

- 登山界この1年
- 2015年山岳遭難事故の発生状況まとめと、山岳遭難事故事例収集
- 山域別入山者数
- 山岳観光地における外国人登山者の動向(富士山/上高地)
- 2015年の気象を振り返る 各月の気象状況/熱中症と低体温症/紫外線
- 2015年 日本の火山活動 エリア別アルパインウェアの4大トピック
- 世界登山界の動向 2015/16
- 提言-2016年、私はこう考える
- 山岳関係の書籍、雑誌の動向
- 山岳関係のエンターテインメント作品の動向
- Yamakei Online の調査から 登山用具購買実態/地方への山旅と観光/親子登山、三世代登山
- 登山者の現在像、登山人口をどう分析するか
- 山岳トイレの改善
- 登山に関する最新研究
- 長野県の遭難事故をピックアップ 捜索救助活動と費用の実際
- 日本の登山組織は今 公益社団法人日本山岳協会/日本勤労者山岳連盟/公益社団法人日本山岳会/日本山岳ガイド協会の活動
- 登山界 365日-この1年間のできごと- (参照:山と溪谷社 WEB サイト)



「登山白書」の中でも重要なトピックとして取り上げられていますが、遭難者が過去最高となっている点は驚きです。ここ1~2年キャンプは好調なアウトドア業界ですが、登山自体は数年前のブームも落ち着き、停滞気味な印象を受けます。実際に昨年の富士登山者も減少しています。にもかかわらず、遭難事故は増加傾向となっているのです。登山道具が進化し、情報なども入手しやすいのに、便利な事が逆に登山者の油断や認識の甘さにつながっているのでしょうか。

「山(自然)には危険が潜む。」

この基本的な事を再認識する時期なのだと強く思います。

※2015年6月18日の警察庁発表の全国統計では、遭難発生件数 2,508 件、遭難者総数 3,043 人と最多記録を更新し続けています)

最初に取り上げた「山の日」の制定が、山への意識向上と共に、安全への意識向上、そしてアウトドア業界の発展につながることを願っています。

文責:松田次郎

今年3月頃、今まで登っていない大菩薩嶺付近の山がないかと地図を広げた時、大菩薩の北側に黒川山・鶏冠山(けいかんざん)という山を見つける。登山口となる柳沢峠まで塩山駅からタクシーで約40分およそ5,200円かかるとのこと。乗り合い乗車ならいいが、一人となると私としては厳しい金額。バスでのアクセスを調べる。平成28年の運行期間は4月23日～11月23日の土日祝日のみとわかる。5月以降に行ってみようと計画し、6月19日 日曜日いよいよ決行。梅雨時期なので天気を心配するが、予報では晴れのち曇り。決行日数日前に姉に鶏冠山に登りに行くと話すと「行く～！！」と元気な返事が返ってくる。当日高尾駅で待ち合わせすることに。

<ポイント1>

黒川鶏冠山:黒川山というのは本来大菩薩嶺の北、柳沢川と泉水谷に挟まれた山域一帯をいう。今では三角点峰を黒川山、その東のあたかも鶏冠のようにとがった岩峰を鶏冠山とよび、合わせて「黒川鶏冠山」と総称することが多い。

武田氏の時代にこの周辺で金が採掘されたことから「黒川金山」という名でも知られ、現在でも東の山腹に坑道の跡を見ることができる。全盛のころには黒川千軒といわれるほどの鉱山街がその谷あい栄えたという。(ヤマケイアルペンガイド4 奥多摩・奥秩父 参照)

6月19日(日) AM5時起床

予報通り晴れている。前日に購入した朝食、行動食を冷蔵庫から取り出しザックに押し込む。今日は暑くなりそうなのでお茶は用意せず、ナルゲンボトルに飲み水1ℓ、プラティパスにお昼に使う水を500ml用意する。

AM6時 自宅出発

電車にて高尾駅まで。駅で姉と合流。

AM7時6分 高尾駅発甲府行きの電車に乗車

いつものことながら、休日の早朝電車は登山者で賑わっている。下車する塩山駅まで1時間ちょっと。その間に朝食を済ませる。

AM8時12分 塩山駅到着

AM8時30分 大菩薩峠経由、柳沢峠、落合行のバスに乗車。

立ち乗りの方がいるが、思っていたよりバスは空いている。

<ポイント2>

塩山駅から柳沢峠、落合行のバスは一日2本のみ。逆方向の落合から塩山駅行きのバスも一日2本しかない。乗り遅れると痛い出費となる。下記甲州市のサイト参照。

<http://www.city.koshu.yamanashi.jp/kurashi/koutsu/detail/>

大菩薩峠登山口で半分くらいの方が下車。ここから先を乗車し続けるのは初体験。山道に入っていくと結構迫力のある道となり、「青梅街道、大菩薩ライン」と名付けられている。調べたところ、ツーリングに人気のある道。大自然の中に作られた高架橋やカーブを何度も繰り返すツーリングは最高の気分なのであろう。(下りは空を飛んでいるようだとブログに書いている方がいる。)

バスが登ってきた道が見えるのだが、本当にすごいところに道を作ったと感心してしまう。この道は柳沢峠越えて、奥多摩の方に抜ける道とのこと。

AM9時15分 柳沢峠下車

終点の落合まで行く登山者はなく、私たちを含め皆このバス停で下車。標高1,472mの柳沢峠、数人のライダー達が楽しそうに会話をしている。駐車場にあるお手洗いを使用し、登山準備をする。鶏冠山と三窪

高原に向かう登山者で二手に分かれるが、鶏冠山に向かうグループが見当たらない。そちら方面に登る人はいないのか？

今年、熊出没ニュースが多くテレビで報道されているが、登山口にも熊出没注意の看板がある。姉と私それぞれEOJのクマ鈴を装備。

(登山口)



9時30分 出発

歩き始めて10分もしないところで姉が「うわ！！びっくりした！」と声を上げる。見上げると黒い服の男性一人、下山してきたのか我々が通過するのを止まって待っている。熊と見間違えた姉に、その男性が通過する際に言った言葉が「いや～笑いごとではなく、先週この付近で熊見ました。気を付けてください。」と……え??「あ……はい。」と返事をするも、準備したのはクマ鈴と戦う道具はステッキのみ。熊は臆病だから驚かしてはいけないが、鈴を鳴らしていたにもかかわらず遭遇してしまったら、まずは逃げる。逃げられないときは戦うしかないのか！ステッキではなくピッケルをもってくればよかった……姉が襲われたらどうやって戦うか…と一人悶々と考えていたら、きれいな広葉樹林帯の森のなかに入り、さっきまでの不安な気持ちを払拭される。

神経を研ぎ澄ましての登山となる。姉もおっかなびっくり、遠くに見える岩や切り株が熊に見えたりで、時より「あっ！…びっくりしたな～」と独り言をつぶやいている。そのつぶやきにこちらでもキツとなる。小心者の自分たち姉妹に思わず苦笑い。

AM10時10分 六本木峠到着

登山者3名が先に休憩中。丸川峠(大菩薩嶺)に向かう道との分岐点となる。水分補給のみ行い早々に出発。しばらく行くと舗装された道を横切る。きれいに整備された登山道が続く。間伐がしっかりされた明るい林だ。



(六本木峠)



(間伐された明るい登山道)

AM10時35分 横手山峠到着

二人の男性が休憩中。「こんにちは。この山は登山者が少ないですね～」と話しかけると「いつ来ても人が少なくてもいい山だよ。急な登りもないし。東京の水道局が管理しているからきれいに整備されているしね。山頂はここからすぐだから楽しんできてね。」と常連登山者の様子。この山は人慣れした熊は今のところいないようだーと安心。ここから少し急な登りになる。

AM10時55分 黒川山到着 標高1710m
明らかに山頂らしくない山頂に姉と二人で疑問を抱く。
鶏冠山に向かう前に、見晴し台に行ってみることにする。
見晴し台は岩場となっており、大勢で楽しむことは
できない小スペースである。景色は残念ながらの
曇り空で遠くまで見ることが出来ない。
早々に来た道に戻る。実は戻る途中の小さい広場に
三角点があり、そこが黒川山山頂で私も姉も見過ごす
という失敗。
分岐点に戻り鶏冠山目指す。アップダウンの後、岩場が
現れる。「これより岩場になります」と注意喚起の
案内板がある。
岩場や木の根が現れ、ここを登れば山頂か??
と思っただ、山頂らしき道標はない。



(↑黒川山(見晴し台)と鶏冠山、道標)

お腹も空いたので、山頂に行く前にお昼をとることに。



(「岩場になります」と案内板が出た後の登山道)

AM11時15分 昼食

お湯を沸かしお昼の準備。雨がぽつぽつ降って

きたが、ありがたいことに木々が遮ってくれ雨具を着なくてもすむ。20分ぐらいで食べ終え山頂に向かう。

AM11時50分 鶏冠山到着 標高1,716m

祠が祀られている。狭い山頂であるが眺めは最高。晴れていたら素晴らしい展望のはず。雨も強かったので早々に下山する。下山は黒川山の北側を巻いて横手山峠に出るコースで戻る。この道を使う登山者はあまりいないのか、足跡がほとんどない。苔の色がきれいだと姉が嬉しそうに話してくる。確かに鮮やかな緑色が美しい。

横手山峠に到着。雨もひどくなりそうなので休憩することなく先に進む。

PM1時30分 登山口柳沢峠に下山

峠に戻るところには雨は止んでいた。小休憩をとる。15時40分までバスはない。途中雨が降ってきたことで予定よりかなり早いペースで歩いた。時間があるので三窪高原に登り、柳沢の頭まで行くことにする。

<ポイント3>

三窪高原:柳沢峠駐車場から歩いて一時間程で訪れることができる。富士山・南アルプスのビュースポット。
(関東の富士見百景)山梨県甲州市観光協会ホームページ参照

PM1時45分 柳沢の頭に向けて出発

こちらのコースは階段から始まる。さすがに姉も足に疲れがでてさっきと同じペースでは登れない。時間はたっぷりあるのでのんびり進む。ひたすら登りのコース。西側斜面展望は開けていたがあいにくの天気
で景観はいまいち。



(柳沢の頭への道)



(柳沢の頭)

14時15分 柳沢の頭到着

ちょっとした広場となっている。のんびり時間を過ごそうとしたが、雨がひどくなり急いで下山。展望は残念ながらもなしく単なるトレーニングとなる。

14時40分 柳沢峠に再び到着

ライダー達が入り代わり立ち代わり駐車場に入ってくる。トイレで着替えを終え、余った行動食を食べながらバスが来るのを待つ。

15時40分 落合から来たバスに乗車

今回は思ったより天気がパッとせず、景色も堪能できなかった。紅葉の時期また訪れてみようかと思う。熊もまだ活動中か！？その時は丸川峠経由して下山しようかな…。次の山行計画を考えながら、今日も無事下山できたことと熊におびえながら一緒に登山してくれた姉に感謝。

6月19日(日)

9時30分	柳沢峠出発
10時10分	六本木峠着
10時35分	横手山峠着
10時55分	黒川山(山頂)着
11時50分	鶏冠山 着
12時35分	横手山峠着
13時30分	柳沢峠着

文責:松田留美



(鶏冠山より)

アイデアのニッポン フチドラシリーズ(ST26)

- フチドラゴンは靴の踵につける滑り止めです。
- 踵が滑ると、バランスが崩れスリップ事故の原因になります。踵に滑り止めをつけると、スリップせずに行動できます。靴底の踵がすり減るのも爪先よりも重心がかかるためです。フチドラゴンは靴の踵の減りも防止します。
- フチドラゴンはアイゼンではありません。雨降りの滑りやすい坂道でもよく効くよう6本の爪を360度方向に配置。爪が岩の割れ目に入ってもバランスを崩さぬよう高さ6mm。信頼度のたかいクロモリ鋼、焼入れ製です。
- サイズは小さな靴用のレディース。登山靴用のノーマル、防寒靴用のビッグを揃えました。丸カンの外側からベルトを通す『フリクション装着法』で装着するとさらに安定がよくなります。



フチドラゴン

クロモリ鋼(SCM435M)製 カラー:黒色電着塗装
重量:200g ナイロンケースつき 固定バンド式
レディース、ビッグドラゴンとも横幅以外価格、仕様は同じ。
税込価格:¥4,968

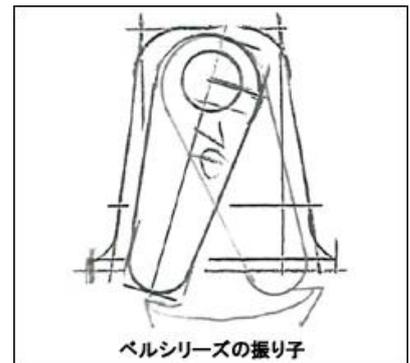
愛するニッポン

ベルシリーズ

- シンプルな造り、愛らしい鈴音。好みの大きさを選べる熊鈴です。
- 吊り紐のステンレスワイヤーが振り子(ハンマー)を固定します。ワイヤーの弾力で歩くごとに鈴音が大きく響きます。ワイヤーは肌にやさしいナイロンコーティング加工をしています。
- 簡単に脱着ができる消音板付き。消音板をつけると鈴音が響きません。

<振り子の原理>

ベルはハンマーの重さと振り半径に比例して大きく響きます。



ビッグベル (C18)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:45 mm 直径:45 mm
重量:85g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥3,564

0'(ゼロ)ベル (C11)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:39 mm 直径:40 mm
重量:65g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥2,268

フチベル (C17)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:27 mm 直径:29 mm
重量:30g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板つき
税込価格:¥2,052

ミニベル (C16)

真鍮製 カラー:ゴールド
高さ:14 mm 直径:16 mm
重量:10g
1.5 mmφステンレスワイヤー
吊り 消音板なし
税込価格:¥1,253

Made in Japan の現場より写真レポートは今月号はお休みします。